

A 126 「本朝食鑑」収録の食養生記事に関する分析調査(第一報)

日本女大 石川松太郎 筑波大附坂戸高 ○石川尚子

知洋女大 松田久子 高野俊

その1. 食生活史上よりみた本書の特徴と意義

目的 私たちは、昭和53年の家政学会総会において、「近世養生思想展開下における食品食物摂取の動向」と題する研究発表を行った。本研究は、その継続として、近世養生書の中でも代表と目される人見必大著、元禄十年(1697年)刊の「本朝食鑑」を取り上げ、精査したものである。近世は、人命尊重の動向が高ま、たにもかかわらず、乳幼児の死亡率は高く、疾病率や妊産婦の異常も多く、従って平均寿命もまた低かった。そのため、養生思想が発達し、特に、食品食物の摂取法から養生に心がけようというねらいの養生書が普及発展した。本研究では、その実態を明らかにするため本書を取り上げたのである。

方法 わが国近世は、養生書、料理書などが数多く出版され、食生活に対する関心の深さを示している。その中でも本書は、中国「本草綱目」の記事を大巾に取り入れながらも単なる知識の羅列ではなく、庶民の日常食を中心に、当時の食生活の実態をふまえた記述が試られている。第一報ではおもに、植物性食品にかかわる記事を抽出し、その内容を分析して、本書の持つ食生活史上の特徴と意義をとらえようとしてみた。

結果 上記分析をすすめる過程の中で、現代食生活の特徴をとらえる上でも重要と思われるいくつかの結果が得られたので、ここに発表したい。